

元気に！ 楽しく！



いきいきシニア

北区の65歳以上の人口は約6万5千人（北区総人口の約23%）。札幌市全体では約45万人（全市総人口の約23%）になります（平成26年7月1日現在）。シニア世代の活躍の場は、地域の活性化や、まちづくりなどの町内会活動をはじめ、趣味や特技を磨くコミュニティセンターや地区センターでの講座、地域貢献活動と趣味の両方で活躍できる老人クラブなどさまざまです。

今月は、北区で活躍しているシニアの皆さんをご紹介します！皆さんも、自分に合った活動の場を見つけてみませんか？

地域の子どもたちと楽しく活動！ ～さわやか1・3クラブ～

あいの里児童会館では、毎月最終金曜日になるとシニア世代と子どもたちの元気な声が聞こえます。あいの里地区にある老人クラブ「さわやか1・3クラブ」は、平成19年から、同館で行われる「伝承遊びタイム」に参加し、子どもの頃楽しんだ、けん玉、こま、パッチ、竹馬などを子どもたちに教えています。同クラブでは現在約70人の会員が、それぞれ得意な遊びを披露しながら、子どもたちと楽しい時間を過ごしています。クラブの活動の他に、児童会館の隣の畑で野菜を育てたり、百人一首の読み手をしたりするメンバーもあり、子どもたちの人気者になっています。

同クラブ会長の^{やまとしんじ}大和信二さん（67歳）は「気軽に参加できる雰囲気づくりが大切です。38人でクラブを始めて10年ほどになりますが、さらに会員も増え、伝承遊び以外にも緑地の清掃活動や、カラオケ、マー



畑の苗植えの様子



こま遊びを教える「さわやか1・3クラブ」の皆さんジャンなどの交流会、施設の見学など多彩な活動をしています」と話してくれました。

また、畑の世話をしている^{かがわかつひさ}加川勝久さん（76歳）は「世話をするようになって10年近くになりますが、子どもたちと楽しくやっています。地域の子どもたちは地域で育てていけたらいいですね」と話していました。子どもたちも、町内を歩いていると「あっ！加川さんだ！」と声を掛けるほど。^{なかざきこうじ}中崎浩二さん（74歳）は「百人一首の読み手は5年ほど前からしています。子どもたちが大会で賞を取って帰ってくると嬉しいですね」と笑顔を見せてくれました。同館館長の^{ただみかこ}多田美佳子さんは「地域の方が見守ってくださるのはとても良いことだと思います。子どもたちの良い刺激にもなります」と話してくれました。



左から大和さん、中崎さん、加川さん